



舞鶴市史編さんだより



田辺城跡第35次発掘調査速報

～修復された三ノ丸石垣みつかる～

田辺城は、安土桃山時代に織田信長や豊臣秀吉に仕えた細川幽斎(藤孝)・忠興父子が、西地区の海辺に築いた平城です。慶長5年(1600)に起こった関ヶ原合戦の前哨戦の一つに数えられる「田辺籠城戦」の舞台として知られ、江戸時代には京極氏、牧野氏と城主は変わりますが、明治維新による廃城令により取り壊されるまでの約280年間、城下町と共に政治・経済の中心でした。

舞鶴市では、公共施設の建設に先立ち、6月9日から約2か月間にわたって旧市民会館跡地の西端において、田辺城跡の発掘調査を実施していましたが、三ノ丸石垣の一部を検出するとともに、当時の石垣修復の様子を確認することができました。

検出した石垣は、東西方向の約10m分と南北方向の約1m分の「L」形に折れた部分です。これに続く南側の石垣は旧市民会館工事の際に取り除かれて残っていませんでした。当時の田辺城絵図をみると大手門北側の堀に面した三ノ丸石垣の一部とみられます。堀底からの高さは1.6～1.7m、上部石垣は失われて本来の高さは不明ですが、絵図には高さ2間(3.6m)と記されています。

石垣に使われている石材のほとんどが花崗岩で、観察すると基底から2段目までは加工されていない自然石(転石)が使われ、3段目から上部には割って荒整形された石材を用いて割った面を外面にして積んでいます。特に大きな石材は、横約1.1m、高さ約1.3m、奥行き0.4mを測ります。

石垣の時期については、細川期の『田辺籠城図』にはこの東西石垣が確認できないことや、石垣の積み方や加工方法の違いなどから、基底から2段目までの石垣は京極期の石垣と考えられます。また、延宝9年(1681)の『田辺城修復図』(図2)には、今回の調査箇所に「此所2間崩、高サ2間」の記述があり、2段目より上の石垣は牧野期に修復された石垣と考えられます。(細川期:1580～1600年、京極期:1600～1668年、牧野期:1668～1869年)



図1 田辺城跡第35次発掘調査現地説明会の様子

なお、発掘現場は8月2日に開催した現地説明会後に埋め戻して保存しています。

また、敷地内では(公財)京都府埋蔵文化財調査研究センターによる発掘調査も実施されています。

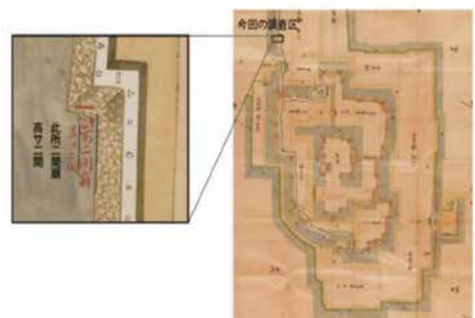


図2 延宝9年『田辺城修復図』(個人蔵)



近代鳥瞰図に描かれた舞鶴

舞鶴市市史編さん委員会
委員 上杉 和央

坂根栄正堂の刊行した『舞鶴図会』は、「舞鶴を中心とする日本海交通鳥瞰図」(表面)と「舞鶴由良名所案内」(裏面)から構成される作品です。表面の鳥瞰図の作者は、「大正の広重」こと吉田初三郎で、舞鶴要塞司令部の検閲済許可を大正13年(1924)3月15日付けで受けており、その直前の制作と推定されます。

本鳥瞰図(図3)は、とても細長い形状をしています。画面は手前の陸地から海を眺めるという視点を基軸とし、上の左端中央付近に舞鶴(西舞鶴)を、そして中央下部付近に新舞鶴(東舞鶴)を配置する構図となっています。両舞鶴を左～中央に寄せたのは、右側にも描きたいものがあつたと考えるのが妥当です。そうした時、注目されるのは両舞鶴の港から画面右側に向かって伸びる航路です。この航路は途中で途切れることなく目的地が記されています。舞鶴港から伸びる航路は「元山」(現在の北朝鮮・ウォンサン)と「大泊港」(樺太)に、そして新舞鶴港から伸びる航路は「小樽港」(北海道)へとつながっています(図4)。図のタイトルにあるように、舞鶴は「日本海交通」の中心なのだ、ということ表現しようとした結果とみてよいでしょう。



図3 吉田初三郎画『舞鶴図会 一舞鶴を中心とする日本海交通鳥瞰図一』坂根栄正堂(1924年)

大正13年と言え、4月1日をもって舞鶴鎮守府が要港部に格下げとなるタイミングです。舞鶴地域全体に暗雲が漂う中、軍事産業を中心とする都市から貿易や交通を中心とする港湾都市への展開を画策していた真ただ中であつた時期です。初三郎自身が、そうした都市の思惑をどの程度把握していたかどうかは分かりませんが、結果として、この時期の舞鶴の進もうとしていた未来像を適切に反映した構図となっていると思います。

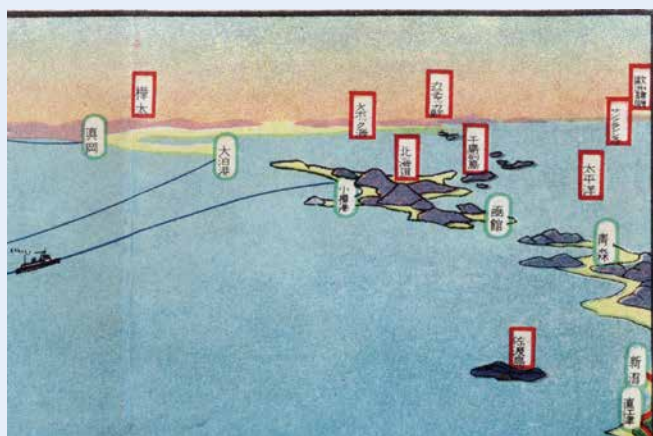


図4 同図 右上部分

舞鶴の記憶 [4]

～戦後引き揚げと舞鶴のおもてなし～

第二次世界大戦後、およそ660万人の日本人が中国、旧満州、朝鮮半島をはじめ、サイパンやテニアンなどの南洋群島のほか、フィリピン、インドネシアなどの国や地域にのこされました。そうした人々を日本へ帰国させるようGHQからの指令により「戦後引き揚げ」が開始されました。ちなみに660万人の引揚者は当時の日本の人口の8%にあたります。

引き揚げの港は舞鶴の他に博多、佐世保、浦賀、横浜、大竹、函館など全部で18港が指定されました。博多港には最多の約140万人が上陸し、舞鶴港には3番目に多い約66万人が上陸を果たしました。また、舞鶴港は18あった引揚港の中で13年間で最もながく引揚港として活躍しました。

舞鶴へ到着した人々は船から見える緑の山々を見て、やっと祖国へ帰れたと感動したと多くの手記などに記されています。また、引揚船が見えると沿岸の村々では「おかえりなさい!」と帽子や手を振って出迎えてくれました。

引揚船から舞鶴へ上陸した人々がまず向かう場所は舞鶴引揚援護局でした。舞鶴引揚援護局では帰国の手続きのほか、一時金の給付やその後の引揚援護のための「引揚証明書」の交付をうけました。

また、引揚援護局では市内の各学校や地域などから慰問のための児童・生徒が歌や演劇などを披露して引揚者を元気づけました。東舞鶴や西舞鶴の駅ではふるさとへ向かう引揚者にふかした芋やお茶、みかんなどを無償で振る舞いました。引揚者ひとりひとりに「ご苦労様でした」と声をかけ、中には涙を流して喜んだ引揚者もいたといわれます。

舞鶴ではそうしたおもてなしを戦後13年間、346回引揚船が入ってくるたびにおこなっていました。そこには戦後の貧しい生活の中でも、他者に寄り添い思いやる気持ちにあふれていた人々の気持ちがみえます。

(NM)

今年は終戦から80年、そして引き揚げに関する資料が世界記憶遺産に登録されてから10年という節目の年です。来る10月12日(日)には、「舞鶴引き揚げの日 平和記念式典」が開催されます。



図5 サハリンのホルムスク(真岡)からの帰国者を乗せた引き揚げ最終船「白山丸」(昭和33年9月7日撮影)



図6 援護局からランチで五条栈橋へ着き、東舞鶴駅へ向かう復員軍人を見送る市民

取組状況

◎第5回舞鶴市市史編さん委員会での協議結果をふまえ、「新修・舞鶴市史編さん実施計画」の一部を次のとおり改定しました。

〈ア〉分野編「引揚港」の刊行年次

令和8年度 ⇒ 令和9年度

〈イ〉資料編「文化遺産」の編さん方針

「文化遺産」として令和13年度刊行

⇒ 地形・地質や絵図・地図など4つのジャンルに分け、それぞれ刊行時期を設定(令和9年度～14年度)

◎各部会の調査活動や地域史に関する情報発信(講話の開催、編さんだよりの発行等)なども継続的・計画的に取り組んでいるところです。

年度別刊行市史(予定)

令和9年度	分野編「引揚港」、資料編「中世以前」 資料編「文化遺産(地形・地質)」
令和10年度	通史編「平成の舞鶴」、 資料編「文化遺産(絵図・地図)」
令和11年度	分野編「城と城下町」、 資料編「文化遺産(美術・工芸・建造物①)」
令和12年度	分野編「旧軍港」、資料編「近世」
令和13年度	資料編「近代」、 資料編「文化遺産(民俗)」
令和14年度	通史編「概要版」、 資料編「文化遺産(美術・工芸・建造物②)」

市史編さん日誌

令和7年6月～8月 (主な活動)

6月～8月	市史ボランティア活動を各月2回実施(金村家文書調査、舞鶴市史資料写真撮影等)
6月1日	金村家文書調査・写真撮影(京都府立大学)
6月2日	第5回市史編さん委員会開催 実施計画の一部改正について協議 (東昇委員長ほか委員4名)
6月2日・3日	文化遺産部会地形・地質グループ化石調査(藺田哲平委員)
6月17日	舞鶴市史(近世)チャットボットワークショップ開催
6月17日 ～7月31日	舞鶴市史近代図面資料・新聞切抜き資料等写真撮影
6月19日	綾部市資料館から田辺藩裁判資料(後半分)を借用、 8月28日まで写真撮影
6月28日・29日	金村家文書及び木船家文書の写真撮影(京都府立大学)
7月1日	新修・舞鶴市史編さんだより第3号発行
7月2日	金村家軸物書画資料調査(協力:京都府立丹後郷土資料館)
7月12日	第3回地域史講話開催 [講師] 市史編さん委員 上杉和央氏 (京都府立大学文学部教授) [演題] 「絵図・地図からみた近代の舞鶴」 (参加者61名)
7月12日・13日	金村家文書調査・写真撮影(京都府立大学)
7月12日・13日・19日	木船家文書目録校正(京都府立大学)
7月30日	舞鶴市歴史資料目録第1集 「木船衛門家文書調査報告1」発行
8月1日	現代部会委員1名、文化遺産部会委員6名委嘱
8月2日	田辺城跡第35次発掘調査現地説明会開催(参加者50名)
8月6日～8日	京都府立大学文学部歴史学科の舞鶴におけるフィールド実習に協力 (竹屋島崎稲荷神社調査、白杉古墳調査、聞き取り調査等)
8月10日	上安久1号墳発掘調査現地説明会開催(主催:(公益財団法人)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
8月15日～17日	現代部会引揚港グループ資料調査(黒沢文貴委員ほか委員3名)



図7 金村家軸物書画調査



図8 第3回地域史講話

[発行] 舞鶴市
生涯学習部文化振興課(市史編さん係)

〒624-0853 舞鶴市字南田辺1番地 舞鶴西総合会館2階
TEL: 0773-68-9556 FAX: 0773-77-1823
Eメール: history@city.maizuru.lg.jp